



2023年5月の崩落箇所
2024年11月に工事終了

令和7年の春を、昨年と同じように迎えました。夕張も昨年より積雪が少ない気がします。夕張岳に続く鹿島林道が、二年ぶりに修復されました。

昨年は「夕張岳関係者協議会」が開かれなかったため、森林管理署の方針はまだわからないのですが、春になり雪が解けて他に崩落箇所が無ければ、いつもの6月中旬には、ヒュッテ開きができる事でしょう。

商業登山を含めた、待ちに待った全国からの登山客が、大勢殺到する事となりそうです。

一昨年からの林道閉鎖の二年間は、宿泊客もおりませんので、ヒュッテの管理体制を取っており

令和7年度の春を迎えて

ユウパリコザクラの会代表 藤井 純一



第122号

2025.01.27 発行

(令和7年)

ユウパリコザクラの会

事務局(菊地)

〒069-0835

江別市文京台南町 53-13

FAX 011-387-1385

携帯 080-6090-1839

E-mail

info@yuparikozakura.org

Website

http://yuparikozakura.org

ようこそ花の夕張岳へ

https://www.facebook.com/

yuparikozakura/



林道終点からヒュッテまでの道の補修

ませんでした。そのような意味で、今期はかなりの不安な部分があります。皆様の絶大なる協力を得て、またヒュッテ運営を再開したいと思えます。

設備的には、ヒュッテ母屋のテラスの基礎部分が痛んでいたのを、基礎のやり直しから修復して、敷板も新しい物を敷

きました。テラスからは、過去に何人も人が落下して人が人を出しています。登山客ではなかった事が幸いでした。これは何としても、開設前には施工を終了しなければなりません。

また、設置後数年経過しているソーラーシステムのバッテリーが消耗しています。充電で回復させるか交換をしなければなりません。さらに、現在雑然としてほぼ物置状態化しているヒュッテ2階の整理をして、少しでも就寝スペースを確保しないと、沢山の宿泊客が来た時の収容が難しくなりそうです。かねてから、「夕張岳の保全保護に若い人」と云



地域次世代間交流事業 (過去のスナップ)

う思いで、地元の子供たちが参加できる育成事業をしてきました。長い目で見なければならぬ事業ですが、現在の様々な情勢を鑑みると、見直さなければならぬ時期になっていると感じています。良いアイデアを出し合って、課題解決に

結び付けていきたいと思えます。

ヒュッテの管理人ですが、現在はコザクラの会の有志で交代で担当をしています。夕張市の財政の事情もありますが、そろそろ以前のように、夕張市で対処なり協力してほしいと思っています。この事業も夕張市の教育委員会に働きかけたかと思えます。総会は今年も5月に予定されると思いますが、沢山の出席を期待します。

夕張岳は一地方の山ではありません。日本だけの山でもありません。世界の山です。この山の保護・保全活動に誇りを持ち、頑張りましょう。



850 m峰からのシューパロ湖越しの夕張岳 (2024.2)

道道モアシヨコ原野螺灣足寄停車場線の 原生苔見学会に参加

自然観察員 阿部博子

令和6年7月7日、十勝自然保護協会の案内による道道モアシヨコ原野螺灣足寄停車場線の原生苔見学会に参加し、アカエゾマツの森と林床の苔のすばらしさに触れてきました。ユウパリコザクラの会からは3名が参加しました。

オンネトー周辺は個人的に良く訪れます。理由は高山帯の高山植物はもろろんのこと、亜高山帯のラン科植物など、とても魅力的な植生があるからです。この周辺のしっとりとした苔やシダ類の林床を眺めるも大好きです。

いつもは登山道や散策路脇での観察ですが、見学会では森の中に入りその林床を観察することができました。アカエゾマツの林床は予想以上にふかふかで歩くのが申し訳ない感じです。足元にはいろんな種類の苔類が見られますが、自分が分かるのは、ホソバミズゴケ、フウロソウ、コバノエゾシノブゴケ、シツポゴケくらい。もつと勉強しておけばよかったと、こういう場所に来るといつも後悔します。

いただいた資料によると
 蘚類42属60種、苔類20属35種、その中



苔むしたアカエゾマツの森（道路から入ってすぐにこのような景観が見られる）



ホソバミズゴケを説明する十勝自然保護協会の
川内さん

で特筆すべき種は、ホソバミズゴケ、ゴレツミズゴケ、ササキコオイゴケ、コヨツバゴケ、ウチワチヨウジゴケ、ミヤマイクビゴケ、ナガナキゴケ、タツナミカマシツポゴケとのことです。

地面に穴のあいた所に案内されました。手をかざしてみると冷たい風を感じます。風穴なら地下に凍土があるはず。この森には夏季でも地温が0℃に近くなる場所があちこちにあるとのことですが、確かにこの空気もひんやりしています。きっと周辺の植物たちは、こういう涼しい環境を好んでここにいるのだろうと考えます。

ラン科の植物はアリドオシラン、(ヒメ)ミヤマウズラの姿があります。またハクサンシヤクナゲ、カラフトイソツツジ、コケモモ、ゴゼンタチバナも見られます。残念ながら今日は雨模様ですが、木洩れ日が射すアカエゾマツの森は神々しく、とても美しいでしょう。そう、



風穴と思われる穴（ひんやりと冷たい風を感じることができる）



ハクサンシヤクナゲ（オンネトー湯の滝までの散策コースでひときわ目をひきました）

自然の森は美しく、その存在は尊いものです。

今、道の事業としてこの道道の整備計画が進められています。14年の御嶽山噴火を受け、雌阿寒岳を含む9つの火山が重点的観測研究に指定されました。翌年、「雌

阿寒岳火山防災計画」が立てられ、モアシヨコ原野螺灣足寄停車場線が噴火時の避難路とされました。それに伴い道道の整備を行う計画が進められています。問題となるのは現道の最急勾配7%の区間を緩和するため、南側にルートを変更するという案が有力になっていることです。開削される迂回ルートには今回見学した森があるのです。計画路線は延長4.4kmのうち現道の南側を1.2kmに渡って新規に開削します。凸凹の激しい地形を平坦にするため大規模な切土・盛土を行い、幅30〜50mの開放空間が出現します。当然ながら道路沿いの森林は乾燥が進み、植生に大きな影響が出るようになります。そして、新たな法面には外来種が繁殖することでしょう。そんな情景を想像すると悲しくなります。

失われた自然は元に戻りません。何年か経つと草木が生えて元に戻ったように感じられるかもしれませんが、そこに生えるのは、外来種や攪乱に強い一部の植物だけで、元の植生に戻ることはないのです。

森を開削せず、現道の改修・整備に留めてほしいというのが、個人的な願いです。

立ち止まって見えてくるもの

自然観察員 谷口鏡子

令和5年の5月、山開きの一ヶ月前に判明した林道での斜面崩落。「またあの場所か」知らせを受けた関係者の多くはそう思ったことでしょう。大小の土砂崩れの恐れがあちこちにある鹿島林道、今回の崩落は藤井代表をして「見てはいけないもの」と言わしめた規模でした。

更に、その先の排水管理設備箇所においても管老朽化による道路陥没の危険性が確認されたことから、崩落箇所と合わせて補修工事が行われることになり、調査・施工業者の入札を経て、実際の工事が始まったのが昨秋でした。

その間、自分が任されている自然保護監視員（道委託）の業務は、入山毎の事前申告を条件とし回数減らして細々と実施していました。鹿島林道が通行止めなだけであって夕張岳登山が禁止されているわけではありません。南富良野町から金山コースで夕張岳を目指す登山者とは何度か行き合いました。その度に皆さんクマに遭遇したような驚きよう・・・（驚かせてはいません）。金山コースと言えば、今行き合った中には笹の繁茂で道に迷い大幅に時間ロスしたとの登山者もいて、今後の本格的な対応が望まれます。



そして、大夕張コース登山道の状況は、金山コースほどではないにしても、定期的の実施していた笹刈りができず足元が見えにくい箇所が増えており、1400m湿原付近の高架木道の損壊



（経年による腐食と雪害）も進んでいるので、林道開放となれば丁寧に注意喚起する必要があります。ま

た、入山者が皆無だった二年間が山全体にどのように影響するかもとても気になるところです。会としての巡視活動が一切中止となり、ほぼ単独での山行でしたが、他に登山者のいない（はずの）山にポツンと佇んでいると我が身の小ささを感じるのと同時に、人が踏み入る前の山の様子がどんなものだったか、自然を「保護する・監視する」とは果たしてどういうことなのか、という問いが湧き起りました。

これまでは夕張岳を知るために、とにかく実践あるのみとの気持ちで任務を遂行してきましたが、立ち止まって考える機会かもしれない。

この数年、「循環型」「持続可能」「再生可能」などがまるで枕詞のように冠された活動・事業が様々な分野で活発な動きを見せており、一見すれば地球環境改善への意識向上とも捉えられるわけですが、もろ手を挙げて歓迎してよいものか、資本の新たなターゲットではないかと訝しむこともしばしば・・・。

理想論の域を出ないと知りつつも、たかだかこの300年間の人間社会の経済成長を是とする思考回路から抜け出して（ここでも「立ち止まって」、地球全体の視点でこれからの見通しを考えるべきではないかとも思います。そしてそれは環境問題に限らず、若者の間でまん延する「生きづらさ」を解消（軽減）していく上でも不可欠で、利便性や快適性の追求が、人間を「ヒト」ではないものにしていくような気がしてなりません。直に土を踏む機会がないほどに現代人の日

常は自然から隔絶されている。「ヒト」としての原点を土台にして人間へと成長する過程なくして健全な社会は実現しえない。物心つく前から電子機器からの刺激的な映像や情報が垂れ流しの環境は「ヒト」の原点にはふさわしくない。「便利」が全て悪ということではなく、「不便」を経験する機会もまた必須である。

例年実施してきた「交流登山事業」には、つまりそうした意義も込められていたと今更ながら実感を伴って理解するに至りました。しかし、実際のところ子育て環境や意識が様変わりする中で、さあ山登り！との呼びかけは、いささかハードルが高く参加者の顔ぶれの固定化が課題であることは否めません。「自然豊か」のイメージがある夕張であっても、幼児期の自然体験は決して多くなく、そんな現状を考慮すると、保護者を巻き込み、まずはヒュッテを訪れてみる、次に一泊してみるという段階に分けた企画に変更する時期のように思われます。

ただ登頂を目指すだけでなく、圧倒的な自然の中に身を置いた時の感覚、自分の身の処し方や集団行動の基本など、登山（野外活動全般）は学びの宝庫です。そしてそれは、世代に関係なく「ヒト」としての感性



を取り戻す機会といっても過言ではないでしょう。（ヒュッテに集う大人たちの生き生きとした表情が何よりの証拠・・・え？アルコールのせい？笑）ヒュッテを拠点にした「夕張ならではの人間教育」の実現を目標に、まずは気軽に出かけられる山、登山以外にも楽しみがある山という認識が広まるよう尽力したいとの気持ちを新たにしています。

北海道自然保護連合交流会に参加して

会員 金田一 仁志

昨年11月2日(土) 3日(日) 手稲パラダイスヒュッテで開催された「24北海道自然保護連合交流会」に阿部博子さんと二人で参加してきました。参加は北海道自然保護協会(今回の主管)、十勝自然保護協会、大雪と石狩の自然を守る会、北海道自然保護協会、日本オオカミ協会、ユウパリコザクラの会の6団体と石狩浜定期観光の会(翌日の現地案内の安田さん)計19名。それぞれの近況報告のあとの、「話題提供」は興味をそそられる話ばかりで、とてもすべて載せる事はできませんが、カッコ内に僕の思いを少しだけ記します。

①阿寒富士西麓の森の貴重さと道路開削問題(災害時の緊急避難道路、といえは聞こえも良く議会もすんなり通過するかもしれませんが、失われた自然(特にコケ類)は二度と元には戻らないのでしょうか? 本場に必要なのかをもう一度考えてみては?)

②旭川における野生サケ回復の取り組みと現状(鮭が遡上し、上流で産卵するために設けられた魚道。大変な時間とお金をかけて造られたそれは、なんと鮭が上れない魚道だった?! 作り直してさらにお金と時間がかかるわけで・・・大変ですね)

③石狩湾周辺の風力発電の諸問題(住んでいる人たちの気づかぬところで、まさか国家的な事業がここまで進んでいたとは正直驚きませんでした)

④世界自然遺産知床における携帯電話基地の設置の顛末(昨年の道内10大ニュースになった某議員。新しい国立公園名称にむりやり「十勝」をねじ込んできたあの人は、ここでも暗躍していた!)

⑤増えすぎたエゾシカ対策に、オオカミを移入できないかの提言(たしかに米国イエローストーン国立公園などの成功例はありますが、北海道ではエゾオオカミはすでに絶滅しているわけで、となると生態系の異なるオオカミを? それって皆さんの同意を得られるのでしょうか?) 等などの話で盛り上がり、大幅に遅れた夕食タイムとなりました。

カレーを作ると聞いて「イモの皮剥きます」と立候補したら下準備はすでに終わっていて、あとは煮込むだけのこと。

なつかしい出会いもありました。ずいぶん前一緒に天塩岳に登った大雪と石狩の谷口さん。オオカミの反橋さんは以前HMMで「オレ年だからもう山やらん。道具もらって」って言ったからツエルトを頂いたのに、今回「いや、調子よくなってさ、また山やろうと思って・・・」返さないからね、ツエルト。そのソリさんに「道北は鹿と車の事故が多くて。オオカミ先に放してくれないかしら?」ってあなたの思い通りにはなりませんよ、道自然保護協会の川村さん。ちなみにこの方北海道新聞社の社員で、11月10日の「支局長だより」に「サケ釣り人気の中」でという記事をかかれています。



手稲パラダイスヒュッテ前で

阿部博子さんと函館山の花々について盛り上がりつつあったのは、北海道自然の藤島さん。「特別にうまい酒を持ってきた月桂冠の一升瓶はあつという間になくなりました、(ごちそう様でした) その間を縫うように回ってきたのがカンパの紙箱とポストカード。活動費を生み出す大切な行動です。僕も少しだけ協力させていただきました。

さて、この会議室兼食堂兼・・・は1階です。薪ストーブの熱が部屋の隅々までまわる実にいい作りのヒュッテです。なによりトイレ(地下)がすごい。ウォッシュレット。山なのに! 僕のように持病を持つ者にはまさに「パラダイス!」でした。

カレーもごちそうになり、あつという間に交流会は終了(22時)。寝床は2階です。大粒の雨が屋根をたたいていました。イビキをかく人もいましたが、いつもの夕張ヒュッテと比べたら屁みたいなもので、皆すぐに就寝。しかし僕の寝ていたのが階下のストープの上らしく、とにかく暑い。となりは女性(阿部さん)でしたが、そととズボンと脱ぎ・・・寝袋をかけ布団にして、なんとか眠りについたのでした。

朝食は7時すぎ。昨夜のカレーをかけたうどんと、おきなおにぎり2つでお腹はいっぱいです。しかし出発の9時までは時間がある。「ヒュッテの周りを散歩する

か!」という建設的な意見もありましたが、雨でぬれた山道を歩こうとする人は一人もいませんでした。

9時前ヒュッテの前で記念写真。階段下に立派なパーベキュー用の設備もあって「次は晴れた日に来たいな」は多くの参加者の思いだったのではないのでしょうか?

新川と新道が交わるあたりの駐車場で、昨日の安田さんと合流。最初に案内された銭函風力発電(1から6号機)の風景にびっくり! とても北海道(いえ、日本)とは思えません。6号機のずっと向こうにもたくさん風車が見えます。いったいいつの間にかこんなに数が増えたのでしょうか? 数がありますから、その低周波が影響する範囲も広く、地図を見たら、僕が暮らす西区の琴似地区まで入っています。風車による健康被害も出ていて(ヨーロッパでは最終人家から22km、中国でも10km離れた所にしか風車は建設できませんが、石狩ではなんと300m?) 問題の風車の下に行くと、ゴトン、ゴトンという不気味な音を立てて3枚の羽が回っていました。すぐそばの林をその羽の影が動いていきます。そこに家があったら、窓から差し込む太陽の光は明るい暗いを繰り返すわけで、先ほどの音との相乗効果で、精神衛生上良いはずがありません。

「風力はクリーンなエネルギー」として国をあげて進められているこの政策・・・立ち止まってもに考える時間は無いのでしょうか?

時折激しさを増す雨の中、2時間ほどの現地見学は終了。いろいろなることを考えた。(そして活動をやる皆さんと知り合えた) 素晴らし

い2日間でした。石狩灯台そばのはまなすの丘ビジターセンター2階で解散式となりましたが、そしてこれは別れの在田会長のお言葉。「順番からいくと次回ユウパリコザクラさんだね。ヨロシクね・・・」

林道が開通し、多くの皆さんを迎え入れる事ができる夕張ヒュッテでありますように・・・と願い、別れを告げました。



石狩新港防波堤沖の洋上風力発電

アクティブレンジャー

会計担当 幸村 和実

令和6年4月1日より、環境省アクティブレンジャー(以下AR)として約1年活動してきた。まずは、採用に至るまでの経緯について触れたいと思う。言うまでもないが、ユウバリコザクラの会での活動というベースがあり、コザクラ会がなければ私がARになることもなかっただろう。

きっかけの一つは、夕張岳鹿島林道の崩落・通行止めである。通行止めによって夕張に行く機会が減った。ほかの山に行くことが増え、交流も増えた。そこで抱える問題や課題を夕張岳に重ねる。同時に自然の素晴らしさを再認識することになる。漠然とはあるが、自然の中で仕事ができたらいいな、という思いが芽生え始めていた。

そんな時ARの募集が出ているという話を聞く。様々な葛藤があり、年齢的に厳しい(もうすぐ還暦)とも思ったが、思い切って応募した。なぜか採用された。

ARは、正式には自然保護官補佐という。レンジャー(自然保護官、国立公園管理官)とともに、国立公園の維持管理を主業務とするのだが、実際にフィールドに出るのは週に1日か2日。実は事務作業が多いのである。これは日本の国立公園の制度と関係するのだが、長くなるのでここでは割愛する。

担当するのは支笏洞爺国立公園の、羊蹄山・洞爺湖・登別地区である。飛び地になっていて、それぞれが火山性の特異で優れた景観を持っている。それゆえフィールドに出るの仕事は、楽しくやりがいがある。仕事の一つに、ARの活動紹介と、国立公園の情報を、ブログと

SNSで発信する業務がある。「アクティブレンジャー日記」と「公式」支笏洞爺国立公園 Instagram と「Facebook」。

ぜひ検索して、見ていただきたい。投稿しはじめのころ、困ったことが起きた。花の名前がまっ

たくわからないのである。何冊のもの本で調べるのだが、自信がなく、最後は自然観察員の阿部博子さんにチェックしていただいている。いまでは、少しずつではあるが花の同定もできるようになってきた。博子さんのおかげである。

そのほか、小学生向け環境授業、外来種対策、施設の維持管理など、業務は多岐にわたるのだが、夕張岳にも関わりそうなものを一つだけ紹介する。パークボランティア(環境省HP <https://www.env.go.jp/nature/park/volunteer.html>)と行く業務に、オロフレ山パトロールがある。オロフレ山も「花の百名山」



小学校で環境授業を行う



シラネアオイの鹿の食痕



夕張岳のお話もさせていただきました

で、過去に盗掘被害が多く、毎年花の時期にパトロールをしている。しかし、高山植物盗掘の主犯は、「ヒト」から「シカ」に移っているように感じている。シカには、盗っている意識はないだろうが。オロフ

レ山には、シラネアオイの群落があるが、群落に花が少なく、多くのシカの食痕を確認した。今年、3年ぶりに夕張岳に登れる。楽しみである反面、石原平のシラネアオイがどうなっているか心配である。

一年ほどではあるが、中身の濃い一年であったことは間違いない。さらに知見を積み重ね、少しでも環境に貢献できるようにしたいと、決意を新たにしているところである。

最後に。ARになるにあたって、家族には迷惑をかけた。洞爺湖と小樽の生活で、苦労をかけたばなしである。妻の支えがなくは、ARの仕事は成り立たない。この場を借りて、妻に感謝の気持ちを表したい。

アクティブ・レンジャー日記
[北海道地区]
<https://hokkaido.env.go.jp/blog/>



【公式】支笏洞爺国立公園
(instagram)
https://www.instagram.com/shikotsutoya_nationalpark/



(Facebook)
https://www.facebook.com/ShikotsuToya/?locale=ja_JP



能登半島災害ボランティアに参加して

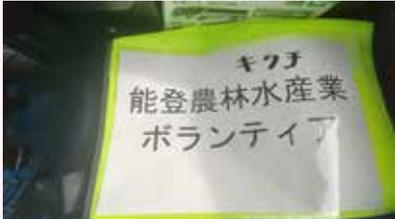
事務局長 菊地 宏治

個人的に3月末に旅行で金沢にきましたが、続いてまた金沢にきています。石川県災害対策ボランティア本部に参加者登録して、以下の災害ボランティアに参加してきました。当時写真NGと言われていたもので、災害現場等の写真はありません。

能登の災害は、ボランティアを要求する余裕すら無いのが実情のようです。(自分の事だけで手一杯)まだまだ先が長そうと感じました。

- 4月22(月)能登農林水産業ボランティア
活動場所：志賀町尊保地区、直海地区
内容：水路の泥上げ、原木椎茸の整理、土嚢作り
集合7:00 解散17:30
- 4月23(火)能登農林水産業ボランティア
活動場所：珠洲市若山地区、唐笠町地区
内容：貯水プール清掃(泥上げ)、スイカ苗の定植
集合6:00 解散18:30
- 4月24(水)ボラバス型災害ボランティア
活動場所：能登町
活動内容：災害ごみの片付け、運搬 など
集合6:00 解散18:30

22日は志賀町へ。通行に支障となる災害はなく、比較的すんなり到着。町に入ると4.5件全壊した家屋が見られた。7割位の家屋は雨漏り用のブルーシートをかけている。相当重そうな屋根瓦の家が多く、屋根棟が壊れている家が殆どだ。今日は椎茸の原木に種を打ち込む仕事割当だった。作業は簡単だが、原木が結構重いので積むのが大変で



ビブスをもらって着用します



山の中での作業で虫も多い。慣れないうちから原木を打ち込んで整理する作業は慣れた頃に

作業終了。他の班と合流して、温かく見送られた。23日は半島先端部に近い珠洲市でした。通称「のと里山道路」が、穴水町手前で物凄くやられていて、完全に一方通行。片側2車線の道がすっかり4車線分崩落している箇所も相当量あり、金沢駅から現場まで3時間30分以上かかる。町に入ると全壊している家や、土砂崩れで潰されてしまった家も多い。今日の作業は



スイカの定植作業(ビニールトンネル)



喜ばれたと進捗大進歩の農作業の天下炎

スイカの定植作業が割り当てられました。畝に植えられたスイカの苗にビニールトンネルを被せていく作業です。午後は違う品種の苗植えも体験しました。天気も回復して暑かったです。ここはまだ水道が復旧していない地区も多くあり、沢水は貴重でした。24日は石川県の一般災害ボランティアで支援先は能登町です。生憎、朝から小雨の天気です。予報では日中はさほど降らないということ。昨日と同じルートで向かいます。今日の作業は班分け無しで全員(20名)で一軒の家の災害ゴミの片付けを行います。災害ゴミ



ボランティアセンターにあった励ましの付箋ボード

といったも、実際は家の「家財全部」になります。小銭や卒業証書、アルバム等ほとんど出てきますが基本的に全て廃棄との指示です。貴重そうな物だけを確認してもらいます。軽トラ2台で何度も往復して片付けました。自分の家も要らない物が多くなってきたので断捨離しないといけないと感じました。



今回は前回のボランティアは前回の2日間間は農業水産系のボランティアでした。今回は農家さんでしたが、水産系はまだ受け売りが整っていない感じでした。お昼休みは農家さんのご自宅で持参した昼食を食べるので、「お茶出しも出てないので、」と恐縮されてきました。家の中も片付けができていない箇所が多く見受けられました。とり

あえず雨漏りを防ぐための青ビニールシートが各部屋中に張られているような状態です。それでも畑は無事なので、なんとか毎年楽しみにしている方へ今年も途切れる事無くなんとか作物を作りたい。進捗遅れを何とかしたい。という要求からのマッチングでした。大規模火災があつて被害が甚大な輪島市には行きませんでした。自分の間、災害の作業は残り続けることにならなければと思ひ、帰札しました。

4月に続いて2回目の石川県能登災害ボランティアに参加しました。今回も3日間参加で金沢駅から、輪島市、珠洲市、能登町のボランティアセンターへのバス往復になります。4月の参加時は地震による倒壊家屋の荷物出しや農作業の進捗遅れの手伝いが主でしたが、今回は9月に発生した大雨災害の泥出しや、流出ゴミの処分場への運び出しが主でした。

11月12(火) ボラバス型災害ボランティア
活動場所…輪島市
活動内容…水害ゴミ撤去・泥だし、運搬 など

集合6:00 解散18:30

11月13(水) ボラバス型災害ボランティア
活動場所…珠洲市
活動内容…水害ゴミ撤去・泥だし、運搬 など

集合6:00 解散18:30

11月14(木) ボラバス型災害ボランティア
活動場所…能登町
活動内容…水害ゴミ撤去・泥だし、運搬 など

集合6:30 解散18:00

3日間とも軽トラや3トトラックの運転も担当しました。全国各地から集まる軽トラの半分位がマニュアル車の為、マニュアル運転が出来る人は割りと重宝されます。自分も10年ぶり位に運転しましたが何とか出来るのです。4月の時よりも多少SNSへの公開については緩和されていました(むしろ発信して欲しいとも)ので、今回はプライベートに考慮しつつ、写真も多少載せます。活動時間は約5時間、移動時間は約6時間で毎日の現地への移動がキモとなります。(車でこれる人は能登空港近くに無料のベースキャンプもありました。バス移動がほぼないので、利用者もそれなりにいらっしやいました。)

大雨災害は思っていた以上に深刻でした。地震被害から立ち直りかけた時でしたので、メンタル的にも大きな影響もあつたようです。雪が降る前にもう少し何かかしたいという声も聞こえました。また、来年行ける機会ができれば、参加しようかと思っています。今回も観光は無しで小松空港から帰りました。



輪島市郊外の海岸線は陸地の隆起による海の後退でだいぶ奥に移動した



輪島のボランティアセンターでオリエンテーションを行っている様子



大災害があった県の中心金沢駅。多くの観光客で賑わっていて、被災地色は乏しい



豪雨流出ごみの片付け作業。奥に見える家は1階部分が埋まっています



全国各地の社協から集まった軽トラ。マニュアルが多いのは敬遠されているから?



バスは早朝に金沢駅を出発する。県の担当者に申込地行きバスに誘導される



3日目は能登町で流入土砂の撤去作業



輪島市の処分場は朝市のすぐ近くで火災で真っ黒になった木が残っていた



もとの姿がわからない状態。豪雨による土石が流れた跡。(輪島市郊外)



同じ作業チームで撮影。右手の親指をまげるのは「能登半島」のポーズだそう



2日目珠洲市の作業現場。いわゆる泥上げ作業。注意していても汚れる



輪島市内の倒れてしまったビルは解体作業が始まっていた

空知しんきん産業文化振興基金「ふるさとづくり部門特別貢献賞を受賞」



空知しんきん産業文化振興基金贈呈式 2024年12月25日

財団法人空知しんきん産業文化振興基金(熊尾憲昭理事長は、空知信金の創立100周年を記念した特別大賞の贈呈式を12月25日に岩見沢平安閣で行いました。藤井代表に代わり、菊地が代理で授賞式に参加してきました。

特別大賞は、産業技術部門に山崎ワイナリー様(三笠市)、文化部門に夕張美術協会様(夕張市)、ふるさとづくり部門にいわみざわ百餅(ひゃっぺい)祭り

実行委員会様(岩見沢市)が選ばれたほか、各部門の特別奨励賞と特別貢献賞として21団体・個人を表彰されました。

この基金は南空知管内の中小企業の新技術の開発や革新などの技術水準の向上と地域に培った芸術、文芸などの伝承と普及による地域文化の振興及び、文化的で活力ある故郷の創生により、地域社会の活性化に貢献する活動などを表彰し奨励をおこなっています。

表彰式のあとに、記念撮影が行われ、部屋を変えて懇親会が行われました。たまたまテーブルの両隣が夕張の受賞者であったので、いろいろとお話ができました。コザクラの会以外にも地元で活動している方々がいる事が分かりました。励みにもなりました。しかし、やはり会員の「高齢化問題」はこの会も一緒に、

対応に苦労している点は同じでした。それぞれの活動の向上や魅力度を上げていかなければいけないのは共通認識です。で、お互いの会で協力できるシーンがあれば、協働していく必要があると思います。



表彰状の盾と賞金(10万円)

夕張ヒュッテ営繕作業

トイレ棟の屋根修繕編

ヒュッテ管理員会 五十嵐 康成

トイレ棟西側の庇は、経年劣化と雪の重みに耐えきれず22年(H4)頃に折れ曲がり、トイレを利用する一般登山者の来ない(鹿島林道通行止め)の為、今年度のこの時期の修繕となりました。

まず、屋根の波うち鉄板を1枚ずつ剥がし、下におろしてから再利用するために、曲がった部分を丁寧に修復します。

次に、折れ曲がった庇部分以外の屋根は利用可能であったため、折れた庇部分を切り落とし、残った屋根の上に新たに太いネタ材とベニアを貼り、新たな庇を作って準備完了。

次は、曲がって修復した部分を屋根頂点側に向きを変えて貼りなおすので、「楽勝」と思いきや、端から順調に貼って行くと、残り2枚となった時点で、鉄板の端が5cm程、屋根からはみ出してしまい、「やってもーた」と思った次第、親方(藤井代表)と相談して、鉄板は切らずに補助板をかましそのまま貼って鉄板張り終了。

最後に貼り終えた波板鉄板の釘穴・折れ曲がったところの割れ目、すき間等をシーリングでふさぎ、私の作業が終了しました。



補修中のトイレ棟



屋根上の作業(鉄板の敷きなおし&コーティング)

会費の継続納入・ご寄付
ありがとうございます!

夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方は、ユウパリコザクラの会へ入会またはご寄付をよろしくお願い致します。

年会費 2,000円 家族会員 3,000円

名義:ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座:02780-9-43747

【お仕事の例】

- ・監視パトロール(道委託/森林管理署協定)
- ・ヒュッテ管理人・維持管理(夕張市委託)
- ・高山植物観察員/文化財・森林観察員
- ・各関係団体との交流/広報・庶務作業



夕張岳ヒュッテと炊事棟の
維持管理にご支援を!

2年の間、林道での土砂崩れによる通行止めは続きました。今年も完全に雪が溶けてみないと様子は把握できませんが、今年こそは通常の通行ができるように期待したい所です。宿泊協力金がゼロになる期間が続きましたが、冬季間のダメージの修繕や定期メンテナンス等の工事は進める必要があります。皆様からのあたたかい寄付を何卒よろしくお願い致します。

名義:ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座:02780-9-43747

(銀行間振込の場合)

ゆうちょ銀行 二七九店 当座0043747

